

実験技術の可視化と 技術継承セミナー

開催日時 **2024年 9月 2日(月)** **2025年 2月 3日(月)** **オンライン** **オンライン** 各回とも 10:30~16:30

対 象 • 研究・開発部門の管理者、マネジャー、スタッフの方 • 実験技術の継承を課題としている方

講 師 **奥村 治樹 氏**
ジャパン・リサーチ・ラボ 代表

参加料(税込) 法人会員：55,000円/1名
会 員 外：66,000円/1名

※参加料にはテキスト(資料)費が含まれています。
※法人会員ご入会の有無につきましては以下URLにてご確認ください。
<https://www.jma.or.jp/membership/>
※お申込みページ内参加申込規定を確認・同意のうえお申込みください。

ね ら い

実験技術は固定的なものではなく、ケースバイケースでその時々を考えるべきもので、マニュアル化は難しいと考えられています。

したがって実験技術の継承については、これまでほとんど触れられてきませんでした。

しかし、スピード化、効率化、人材の流動化が激しい今日においては、重要な課題の一つとして注目を集めています。

本セミナーでは、特に**実験技術の技術継承における本質を理解し、発展的成長へつなげるための技術継承戦略**について、暗黙知・形式知といった考え方や行動心理学の要素を取り入れながら解説します。

本セミナーで修得できること

- ✓ 本来あるべき実験技術の継承
- ✓ 基盤人材戦略
- ✓ 保有技術の可視化と情報資産化
- ✓ 継続性と発展の両立

参加者の声

- お話がうまく、非常に理解しやすかったと感じました。講義内容のレベル、量も私個人にマッチしていました。
- 暗黙知は知ってはいるものの漠然とした認識しかなく、「理由や背景」や「選定理由」など具体的にどのようなアプローチで探っていけば良いかが分かったのは大変助かりました。
- 技術を継承する対象者の年齢がかなり離れており、何を軸に伝えればよいのか悩んでいたが体系的に教えていただき参考になりました。
- 自分が実施している考え方自体は大きな間違いがなかったと思い、自信が付きました。
- これまでの自分たちのやり方で良くなかった点分かった。
- 暗黙知・形式知の整理、継承者・受けての心構えや考え方の準備、組織として求められる対応等の整理ができました。

■ プログラム

10:30~16:30 [昼食] 12:00~13:00

1 技術継承と暗黙知

- 継承とナレッジの共有化
- テクニックをテクノロジーに
- 暗黙知を形式知に
- 情報資産化

2 実験技術継承の目的

- なぜ継承するのか
- サステナビリティ

3 実験技術継承における課題

- 伝える側の課題
- 責任と原因の帰属
- 継承における心理的課題
- 受け手の不在
- 現場担当者任せの課題

4 継承プロセスとキーポイント

- テクノロジー化のポイント
- プロセスフロー
- 手順の後ろにあるもの
- 継承の内的プロセス
- 重要な顕在化の方法
- 技術の可視化
- ノウハウ・技術以外に伝えること
- 業務化と期限、ゴール設定

5 継承を成功させる戦略

- 経営戦略との整合
- 優先順位とステップ継承
- 期間の設定と時間確保
- プロジェクト化、マニュアル

6 実験技術継承の実際

- 実験プロセスの細分化
- 作業、思考の区別
- 実験スキルの分類
- 流儀(個性)の整理

7 内面と啓発

- 裁量バランス
- 実験プロセスの比較
- 動作の継承
- 実験条件、実験操作

8 技術(ナレッジ)の可視化・情報化

- 手順だけで終わらない
- 外(手順)の情報化
- 多角的収集と情報次元の拡大
- 内面の情報化
- ソフト要素とは
- パラメーターの可視化
- 認識プロセスの可視化

9 情報の評価と解析

- 情報整理、構造化
- 直感的、感覚的で良い?
- 独立性と相関性
- プロセスとしての解析

10 技術継承の方法(伝え方と教え方)

- 継承のパターン
- 認知バイアスの罠
- コミュニケーション
- 継承技術のブレイクダウン
- 正しいOJT

11 育成と継承

- オーバーラップ
- メンタリティ

■ まとめ ~継承のゴール~ (まとめ~継承のゴール~)

※プログラム変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

